

第 2 回 活躍プロジェクト 記録

開催日時：2025年9月25日（木）

10時～11時半

開催場所：オンライン・多摩市立中央図書館

当日の議事

- 1, 前回振り返りと PJ のねらい
- 2, 情報提供 と アクションプランの検討
- 3, 今年度の到達目標の確認

～以下内容の要約～

1. 前回会議の振り返り

1) PJ 発足の目的

高齢者が自分の力を活かし、前向きに生きていける活動の場・活躍の場を増やし、存在を示すこと。

2) 前回共有された外部情報

○ハローワークプラザ(永山):

高齢者の利用者が増加。役割が変わり、高齢求職者の抱える問題全体を解決するための相談が必要になっている。企業側へのアプローチに組織としての限界があり、課題となっている。

○東京都「100 年活躍ナビ」:

高齢者の 8 割に社会参加意欲があるにも関わらず、実際には参加できていない現状に対応する事業。イベント、趣味活動、ボランティア情報などを団体が登録・発信する形をとっている。

登録希望団体への事務的サポート体制もある。

2. 多摩市社会福祉協議会 ボランティアセンターの活動紹介

1) 主な活動内容

○ボランティアポイント事業:

65 歳以上の介護保険被保険者を対象に、市内約 83 施設の活動でポイントが付与される(最高 50 ポイント/年)。やりがいと小遣いを得られる。

○ボランティア通信発行:

ボランティア団体(約 53 団体)の情報が掲載されており、仲間作りや趣味の延長での活動を紹介。個人で活動を希望する方向けの募集情報や、講座、ボランティアカフェの案内なども行っている。

※ホームページでも活動紹介している。

○特技のボラカタログ:音楽、ダンス、手芸など、特技を活かして地域に貢献できる活動を紹介。

○福祉体験学習メニューの充実:

市内の学校への協力。平和画や車椅子体験など、子どもたちへの啓発活動の支援。

【以下質疑応答・意見交換】

○「特技がないが、何かやりたい」方への対応:

コーディネーターが個別面談で関心事を探り、自宅から近い施設で「雑務」(お茶くみ、コップ洗いなど)など、専門職が専門性の高い仕事に集中できるようにサポートする役割を担ってもらうことが多い。

○独り立ちとフォローアップ:

マッチング後は当事者間で連絡。センター側は定期的な聞き取りや、問題発生時の調整を行う。

○活動できない方への対応:

体が不安な方向けに、座って手作業をするなど、センターが主体となって見守りながら行う活動メニューも用意している。

○営利企業との連携:

営利目的の活動への協力はしないが、企業の**CSR(社会貢献)**意欲がある場合は、積極的に連携を検討する。

○金銭の発生と保険:

ボランティア活動でお金が発生する場合、労災認定などの問題が発生し、かえって活動者が不利益を被る可能性があるため、注意が必要である。

3. 検討と今後の進め方

前回は時間オーバーで結論に至らなかったため、今回は以下の2点について検討する。

①活躍する場をどう増やすか？ ②活躍の場をどうやって提示(発信)するか？

1) 現状の課題と対策(意見交換からの抜粋)

・現在、就労(ハローワーク、シルバー)、ボランティア、その他の活動(介護予防リーダー、行政協力員)など、活躍の場は存在するが、情報が分散している。

・高齢者が自分のニーズに応じて選択しやすい状況を環境づくりが必要である。

2) 市役所での取り組み(共有)

・市役所のホームページ「たまびより」にて、活躍についても情報を集約・整理しはじめた。

・情報発信の対象は、高齢者の生活の向上・生きがいにつながるような活動に限定するなど検討が必要。

3) 2025年度の目標(案)

・現在分散している「就労」「ボランティア」「その他活動」の情報を「たまびより」「100年活躍ナビ」といった既存ツールを最大限に活用し、情報収集・集約・交通整理を行う。

・高齢者が「お金が欲しい・欲しくない」などの自身の希望に応じて、活躍の場をワンストップで選択し、情報にアクセスできる環境を検討する。

➡「見せ方」の検討:現場のコーディネーター(地域包括)が、高齢者に対して「お金がいるかいらないか」などに応じて案内しやすいフローチャートやツールを来年度に向けて検討する。

4) 宿題事項(担当:一層 SC)

○メニューの情報収集:

・永山ハローワークプラザと、外部から見て分かりやすい情報発信の可否について相談する。

・シルバー人材センターと情報連携についてコンタクトを取る。

○情報集約・発信の仕組み検討:

集まった情報をどのような形で集約・発信していくか、高齢支援課と連携して検討する。

4. その他(意見抜粋)

企業によって定年(60歳~)や再雇用(65歳など)に差があり、75歳まで働ける企業もあれば、定年を設けていない企業もある。高齢者の就労・活躍には、企業の働き方も多様化している。社員の定年前にボランティアや地域活動の選択肢を提示する機会への働きかけというアイデアもあるか。

※次回について

今回の宿題事項の進捗を踏まえ、次回会議開催。

以上